

令和 7 年度小平市立小平第十三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

問題ごとにみると東京都の平均を上回るものもあるが、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の両観点で東京都の平均を約 8 ポイント下回った。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「C 読むこと」など、10 ポイント以上下回る問題もあった。

課題

資料を基に自分の考えを表現する問題では、約 3 割の児童が無解答であり、思考を言語化することに苦手意識が強いことがうかがえる。資料に書かれたことを整理し、根拠を基に文章化する力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

授業の中で、根拠を明確にして書く活動を意図的に取り入れていく。物語における登場人物の心情や筆者の意図について、本文中の言葉や表現を根拠に自分の考えを書く活動を各単元に位置付ける。説明的文章では、学習者用端末を活用して要点をまとめ、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。また、ペアや小グループで意見の交流などを行い、他者の考えや表現を知り、より書きやすくなるような工夫を行う。

【算数】

状況の分析

問題ごとにみると東京都の平均を上回るものもあるが、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の両観点で東京都の平均を約 10 ポイント下回った。上回ったものは、コンパスを用いて平行四辺形の作図を行う問題で、図形の特徴を捉え、作図する力が付いてきている。

課題

分数同士のたし算における計算の仕方を表現する問題では、約 3 割の児童が無解答であり、思考を言語化することに苦手意識が強いことがうかがえる。計算手順を筋道立てて説明する力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

計算結果の正誤だけではなく、その手順や考え方を表現することを重視する。立式における考え方や関係を図や数直線に表す活動を意図的に取り入れ、日常的に計算の仕組みを意識できるようにする。また、考え方をペアや小グループで共有し合う活動を充実させ、多様な考えに触れるとともに自分の考えを説明するアウトプットの経験をさせていく。これらを積み重ねていくことで、計算手順を筋道立てて説明する力を養っていく。

【理科】**状況の分析****課題**

「電気回路の作り方」や「融点」など、全国平均を上回る問題も数問あるが、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」のそれぞれの領域において東京都の平均を下回っていた。特に「生命」「地球」領域の正答率が低かった。

「生命」「地球」の領域の正答率が低いことから自分事の問題意識をもって観察することが大切であることが考えられる。また、記述式問題に対する無解答率が、都平均よりも高かった。自分なりの言葉で表現する力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

観察・実験を行う際に自分事の問題意識をもたせて取り組ませる。そのためにも事象提示→問題作り→予想・仮説→計画→観察・実験→結果→考察→まとめという問題解決の過程を基本として授業を組み立てていく。B区分については、できる限り実体験を伴う観察が行えるようにする。また、根拠をもって予想を立てたり、結果から考えられることを自分なりの言葉や文章でまとめたりする経験を積むことで、思考力や表現力の向上を図っていく。また、予想や考察の場面で意見を発表し合い、多くの人の考えを聞く機会を設けることで、科学的な事象をより多面的に捉えることができる力を養っていく。

【質問紙】**状況の分析****課題**

安定した睡眠時間について、就寝時刻・起床時刻ともに否定的回答の割合が全国・都に比べてやや高い傾向にある。また、家庭学習（塾などを含む）の時間については、全国・都平均よりも短い傾向にあるが、これは学習塾などに通っている児童の割合が低いことが影響していると考えられる。家庭学習を全くしない児童の割合は、2%未満と低い。

ICT 機器の活用能力や使用機会が全国・都に比べてやや低い傾向にあるため、様々な教育活動の中で計画的に取り入れていくようにする。また、自分で学び方を考えて工夫することができない（あまりできない）と感じている児童の割合が約3割と高いため、知識だけでなく、各教科の学習方法についても具体的に提示していく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

睡眠時間が安定しないことは、学校生活や学習活動に大きな影響を及ぼす。そのため、授業を通して児童に睡眠の重要性を伝えるとともに、保護者会や個人面談を通して、保護者に対しても積極的に協力を呼び掛けていく。

ICT 機器の活用については、国語科での文章作成、社会科での情報収集、算数科での演習問題、体育科での動画記録など、各教科・領域において学習者用端末をはじめとした ICT 機器を活用する学習活動を積極的に取り入れ、より一層触れる機会を増やして活用能力を高めていく。

各教科の授業において、個に応じた支援を行いつつ十分な自力解決の時間を確保したり、学んだことを自分事として捉えてまとめさせる活動を取り入れたりとすることで、学習意欲の向上を図り、具体的な学びの深め方も伝えていくようにする。また、意見交流の機会を意識的に設けたり、授業ノートや自学ノートを紹介したりすることで、友達から学ぼうとする姿勢も高めていくようにする。